

都市再生整備計画 事後評価シート
東岸和田駅東地区

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	大阪府	市町村名	岸和田市	地区名	東岸和田駅東地区			面積	2.9ha
交付期間	平成22年度～平成24年度	事後評価実施時期	平成24年度	交付対象事業費	616百万円	国費率	0.4		

1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名						
	基幹事業	地域交流センター整備(東岸和田市民センター)、施設案内板整備設置、(1箇所)、案内板設置(1箇所)							
	提案事業	図書館整備、レンタサイクル事業、事業効果分析調査							
			事業名	削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし						
	提案事業	なし							
新たに追加した事業	基幹事業	なし							
提案事業	なし								
交付期間の変更	当初	平成22年度～平成24年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響						
	変更	—							

2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	単位	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
指標1	市民センターの年間利用者数	人/年	59,336	H20	65,000	H24	—	47,671	×	あり なし	老朽化したヘルストロンの廃止等により目標値の達成には至らなかったが、防災街区整備事業による都市基盤整備にあわせ、商業施設との相乗効果により、団体活動の活性化による賑わいが創出され、地域における中核施設、地域住民が交流する場として、一定の機能が発現した。	H25.4
指標2	イベント等の年間開催回数	回/年	67	H20	80	H24	—	200	○	あり なし	イベント開催の判断材料である立地条件の好転、様々な用途に対応できる設備の充実により開催イベントのバリエーションが拡大。イベント参画機会の増加により地域交流に寄与した。	H25.4
指標3	図書館の登録者数	人	5,948	H20	7,000	H24	—	7,441	○	あり なし	図書スペースの拡大、蔵書の充実および分館への機能昇格により、長期の図書館未利用者の発生が抑制され、新規登録者数も大幅に増加。地域の利便性向上に寄与した。	H25.4

3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	単位	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
その他の数値指標1	市民センターの年間平均稼働率	%	59.7	(H22)	/	/	—	74.0	/	/	集会室、大会議室、会議室については、登録クラブ数も多く、多彩な地域の活動スタイルが反映され、朝、昼、夜という時間帯区分に関係なく、高い利用率を維持している。保育室、実習室、多目的室については、朝、昼という時間帯について大幅に稼働率が向上し、多彩な活動支援に寄与した。	H25.4
その他の数値指標2	登録者1人あたりの図書館の貸出し冊数	冊	18.0	H20	/	/	—	25.8	/	/	駅前立地を考慮した閲覧レイアウト空間の工夫や貸出意欲を促すイベントにより、図書館環境が向上し、地域における図書活動が活性化した。	H25.4

4)定性的な効果発現状況

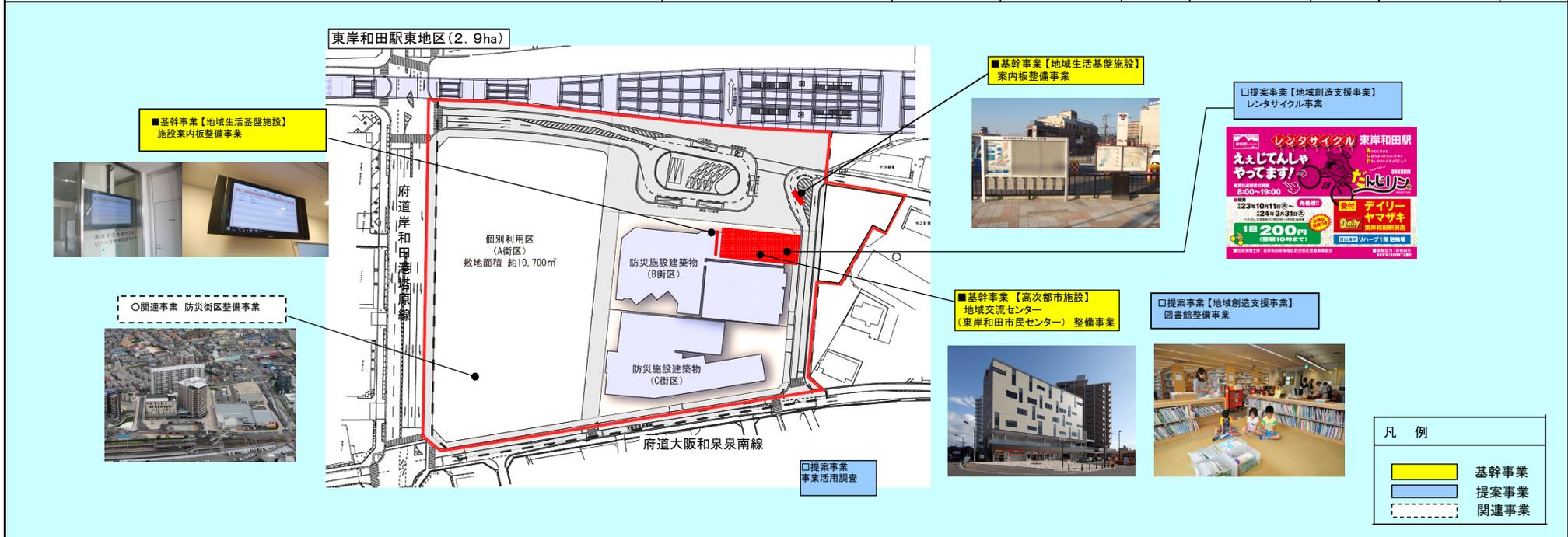
- ・案内板を設置することにより、来訪者にわかりやすい地域情報の発信に寄与した。
- ・施設案内板の設置により、施設内における活動の可視化に寄与した。
- ・レンタサイクル社会実験の効果検証により、実験協力体制を維持しながら旭図書館における地域情報発信等とのマッチングを実践することで、持続的な賑わいを創出する可能性が判明した。
- ・事業効果分析調査により、まちの課題の変化が把握でき、今後のまちづくり方向性の検討に寄与した。

5)実施過程の評価	実施内容		実施状況		今後の対応方針等
	モニタリング	住民参加プロセス	実施できた	実施できなかった	
	モニタリング		都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
	住民参加プロセス		都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
	持続的なまちづくり体制の構築		都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		

様式2-2 地区の概要

東岸和田駅東地区(大阪府岸和田市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標: 岸和田市の山手の玄関口にふさわしい交流とにぎわいを創出する都市拠点の整備 目標1: 地域住民が交流する場を創出する 目標2: 地域の利便性の向上を図る	市民センターの年間利用者数	単位: 人	59,336	H20	65,000	H24	47,671	H24
	イベント等の年間開催回数	単位: 回	67	H20	80	H24	200	H24
	図書館の登録者数	単位: 人	5,948	H20	7,000	H24	7,441	H24



まちの課題の変化	<p>〈課題に対する効果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書スペースの拡大、蔵書の充実および分館への機能昇格により、長期の図書館未利用者の発生が抑制され、新規登録者数も大幅に増加。地域の利便性向上に寄与した。 駅前立地を考慮した閲覧レイアウト空間の工夫や貸出意欲を促すイベントにより、図書館環境が向上し、地域における図書活動が活性化したため登録者1人当たりの図書の貸出冊数が増加した。 <p>〈未解決・新たな課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 多彩な活動が数多く行われ、年間平均稼働率が増加したが、老朽化した施設の廃止等により年間利用者数が減少した。また、東岸和田駅周辺施設のたまり空間として駅前広場が利用される反面、道路上におけるガムのポイ捨て等が発生し、快適な都市空間の阻害要因となっている。様々な施策の組合せにより、市民センターの年間利用者数の増加に努め、東の玄関口(ゲートウェイ)として対応しい賑わいを創出する。 慢性的な交通渋滞と市域分断の解消を図る鉄道高架化の早期実現への要請が高まった。さらに、避難所である東岸和田市民センターにおける、災害時の救護活動や物資輸送などが円滑に行えるよう市域の緊急交通路整備の重要性が高まった。また、市民行動に応じた駐車場の適正配置に対するニーズが高まった。 今回は、本格的実施には至らなかったが、レンタサイクル社会実験の効果検証では、利用者属性の把握、テナント関係者に対するまちづくり意識涵養などの効果とともに、鉄道高架化事業完成時にレンタサイクル事業再開の可能性を確認でき、地域の中核施設となった市民センターのアクセス向上に寄与する交通手段の充実ニーズが高まった。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<p>〈効果を持続させる方策〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 更なる地域住民が交流する場の創出 地域の利便性の維持・向上 <p>〈未解決・新たな課題への対応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 東の玄関口(ゲートウェイ)としてふさわしい賑わいの創出 道路及び交通施設整備の推進 交通結節の強化